



株式会社JR中央線コミュニティデザイン

サステナビリティレポート

2024

SUSTAINABILITY
REPORT LIBRARY
2024

INDEX

01	INDEX
02	TOP MESSAGE
03	企業ビジョン
04	はじめに
05	取り組み方針
06	2023 TOPICS (つながるひろがるACTION) ■ 南武線ピアマルシェ ■ nonowa国立SOUTH ■ セレオ甲府屋上マルシェ ■ にしこくおみやげプロジェクト
10	SERVICE
11	SERVICE & NEWS 【ショッピングセンター】 ■ セレオ国分寺10周年 ■ こくベジ 【駅運営】 ■ ものづくりのわ・もののわ ■ くらすクラス ■ 手荷物預かりサービス 【教 育】 ■ プログラボ ■ RAKUTO 【多様なくらしづくり】 ■ 中央線と暮らすアプリ ■ SHARE DEPARTMENT ■ 地域活性化イベント ■ はちまるステーション ■ ひとほこやカフェ ■ マスタリース・プロパティマネジメント事業 ■ 中央ラインハウス小金井 ■ STATION SWITCH 八王子
20	地域の方インタビュー ■ スイベルアンドノット【中央線ビールフェスティバル実行委員会】 ■ 中西ファーム【はちまるステーション 野菜生産者】
22	目指す働き方 ■ ワークスタイルと働き方データ ■ 若手インタビュー
26	環境目標 ■ CO₂排出量およびリサイクル率の推移 ■ 再生可能エネルギー ■ 食品リサイクル ■ 食料支援の取り組み ■ 地域産材の活用
28	会社案内
29	沿革
30	数字で見るJR中央線コミュニティデザイン
31	主要施設



株式会社 JR中央線コミュニティデザイン
サステナビリティレポート 2024
2024年8月発行
〒184-0004
東京都小金井市本町1-18-10
小金井本町ビル 5F



<https://www.jrccd.co.jp/company/sustainability/>

TOP MESSAGE

Representative Director and President
Yutaka Ozawa

株式会社JR中央線コミュニティデザインが発足してから3年が経過しましたが、
これまで「ここにしかないらしをつくる」という経営ビジョンのもと、様々な事業活動を展開してまいりました。

当社は、JR東日本の「沿線くらしづくり」構想を実現するグループ会社として、
駅に直結する商業施設の運営や駅業務、プログラミング教室や物販店の運営などを通して、
「住んでよかった」「訪れてよかった」と感じていただくために、
新たな価値を創造して街の魅力を高めていきたいと考えています。

- 「私たちの商業施設があるから街や生活に潤いがある」
- 「私たちが運営する駅を利用するたびに元気がもらえる」
- 「私たちが企画するイベントがあるから楽しい出会いがある」
- 「私たちが活動するエリアだから暮らしてみたい」

と言っていたけるように。

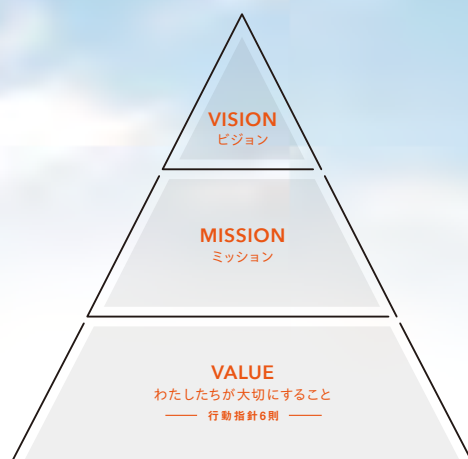
さらに、「株式会社JR中央線コミュニティデザインがまた何か新しいチャレンジしてくれる」
というご期待を裏切らないようにしていきたいと考えています。

これからも10年先、20年先を見据えて、私たちが活動するエリアでは人々が集い、
笑顔があふれ、街全体がひとつのコミュニティのように心豊かな暮らしを育めるように努めてまいります。

代表取締役社長

小澤 裕

JR中央線コミュニティデザインでは、
私たちが目指すべき姿や行動を
「ビジョン／ミッション／バリュー」として体系的に策定しています。
求められる価値を見出し、
事業や活動を通じてそれらの価値を提供することで、
沿線の魅力の最大化を目指しています。



VISION ビジョン

ここにしかない **暮らし**をつくる

MISSION ミッション

「駅」の定義を書き換えながら、
次の安心・快適・よろこびを創造し、
暮らしへの愛着をともに育む

VALUE バリュー わたしたちが大切にすること —— 行動指針6則 ——

1 誰よりも深く地域を考えよう

駅で働く自分たちも、その地域で暮らす生活者の一人。
その当事者意識を忘れずに、誰よりも深く地域のことを考え、
街の声を聴き、隠れたニーズや魅力を敏感にキャッチします。

2 やってみようを合言葉に

やれない理由より「どうすればやれるか」を考え、
失敗をおそれず、スピード感を持って挑戦します。
そして仲間のチャレンジを称賛し、応援し合える風土をつくります。

3 前例よりも異例を目指そう

常識や固定観念にとらわれない柔軟な視点と発想を持ち、
地域や会社にどのような価値がもたらせるかを考え、
前例にならうだけでなく新たな試みにも積極的に取り組みます。

4 自分の成長を仲間の成長へ

自ら知識や経験を広げ、「昨日よりも成長した自分」を目指し続けます。
同時に、仕事の知見やノウハウを仲間と共有し、
ときにサポートし合い、互いに高め合う努力を惜しみません。

5 役割を超えて連携しよう

一人ひとりが俯瞰的な視点を持つことで、
立場や役割を超越して協力し合い、
一つのチームとして連携しながら目標達成を目指します。

6 感謝の気持ちをエネルギーに

ともにいたる仲間や、
あらゆるステークホルダーの皆さまへの感謝を忘れず、
その気持ちを原動力に「くらすよろこび」を創造します。

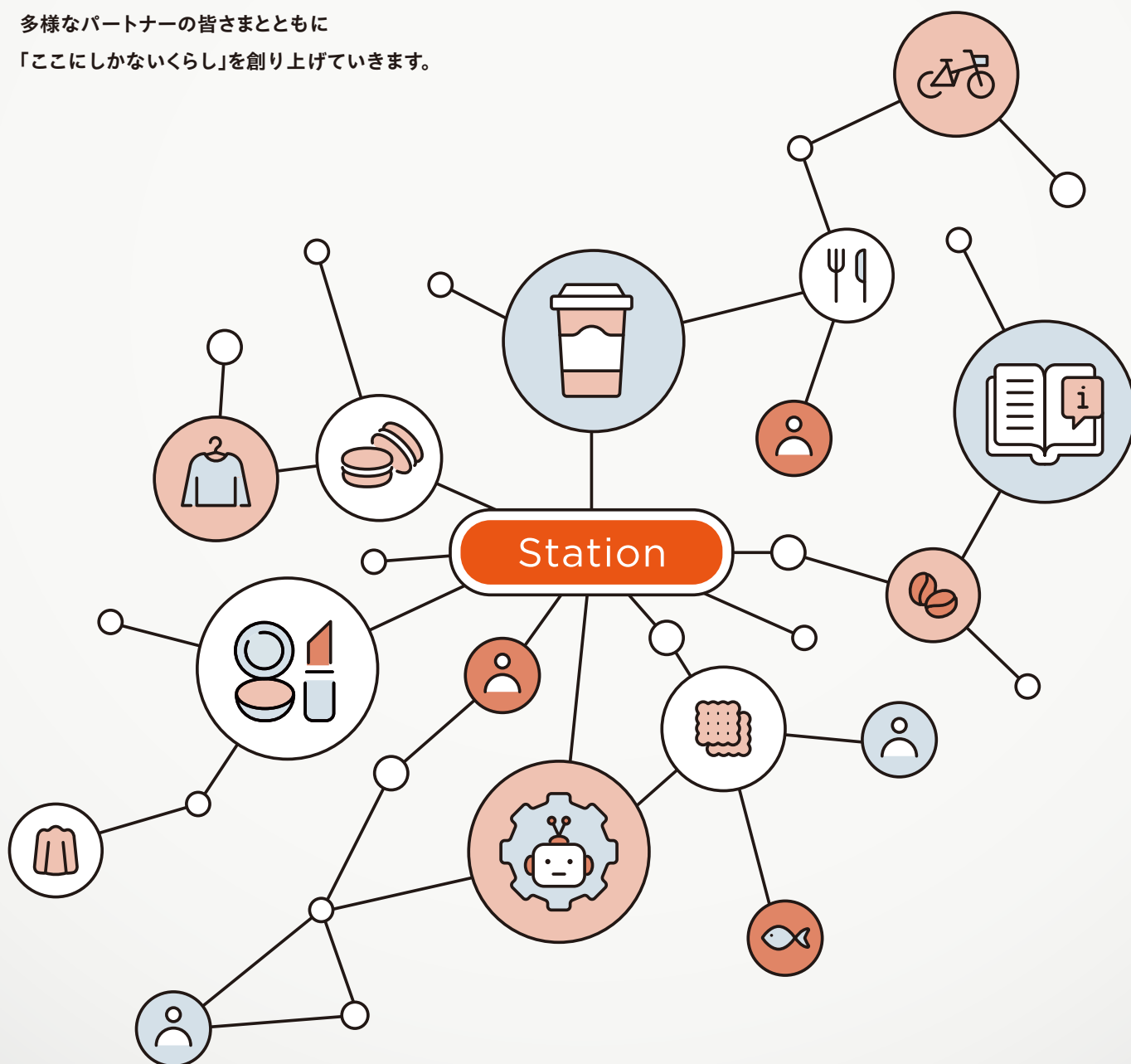
はじめに

私たちにしかできないコミュニティデザインを

JR中央線コミュニティデザインが描く「コミュニティづくり」とは、さまざまな「好き」や「欲しい」を持つ地域の皆さまをつなぎ合わせ、その場所ならではの文化を形成し、ビジネスにつながる多様なマーケットを生み出すことです。

地域にもともとある魅力やポテンシャル、ニーズを発見し、
広げていくことで、新たな価値へとつなげることを目指しています。

駅という場所を大切にしながらも、活動範囲を街にも拡張し、
多様なパートナーの皆さまとともに
「ここにしかないくらし」を創り上げていきます。



持続可能な地域コミュニティを創造する

JR中央線コミュニティデザインは、
ESG (Environment / Society / Governance) の問題解決
および「安全・安心」の追求を、サステナビリティの4つの柱に位置付けています。
また、地域の魅力や可能性を広げるさまざまな事業活動を実施し、
住み続けられる街づくりをはじめとするSDGsの実現にも貢献していきます。



ESGの問題解決は、ガイドライン「SDGs(※)」に沿って、進めています。
※SDGsとは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

SDGsの貢献に寄与する4の事例をご紹介します。
●南武線ピアマルシェ (P.6) ●nonowa国立SOUTH (P.7)
●セレオ甲府屋上マルシェ (P.8) ●にしこくおみやげプロジェクト (P.9)

01 南武線ビアマルシェ

南武線沿線地域に
新たなカルチャーと賑わいを

2023年10月13日(金)・14日(土)、2日間にわたり開催された「南武線ビアマルシェ 2023」。南武線とクラフトビールをテーマに、沿線のブルワリーが稲城長沼駅に大集結した初のイベントです。沿線地域の新たなカルチャー創出と活性化に向け、南武線でも積極的な取り組みが始まっています。



地域の個性豊かなブルワリーを盛り上げたい！

「南武線でもたくさんの人が集まるコミュニティイベントができないか？」地元商店街からのこんな提案で始まった「南武線ビアマルシェ 2023」。近年、南武線沿線では個性豊かなブルワリーが次々誕生しており、稲城長沼駅でも「ぼっぼやエール」プロジェクト※に2023年から参加しています。そこで、クラフトビールをテーマにしたイベントにしようと企画が始動しました。社員自らブルワリーを訪れて出店交渉をしたほか、稲城市観光協会にも協賛いただき、10のブルワリー・40種以上のクラフトビールを手配。中央線ビールフェス運営の経験を持つ社内の別部署とも連携し、実現へと漕ぎ着けました。

※駅社員が栽培したホップを使ってクラフトビールを醸造するプロジェクト



稲城市の特産品が描かれた、稲城長沼駅のオリジナル法被。デザインはセレオ国分寺の社員が協力しました。

「こんな稲城長沼駅を見たことがない」ほどの大盛況

会場となったのは稲城長沼駅前の「いなぎペアパーク」。通勤通学時間帯以外は静かなこの街に、本当にお客さまが来てくれるか…。社員たちは当日まで不安を抱いていましたが、始めてみれば予想を超える大盛況！ポスター掲示やチラシの配布、車内アナウンスなどの事前告知が功を奏し、合計集客人数はなんと1万人。クラフトビールが品切れするブルワリーもあり、大盛況のうちに幕を閉じました。この熱を次につなげるべく、稲城長沼駅では2024年もビアマルシェの開催を予定。来場者からは「子どもと一緒に楽しめる企画がほしい」などのリクエストもいただいており、そうした声にも応えながら、地域の方々がより楽しめるイベントに成長させていきます。



会場の設営条件に合わせ、回遊しやすいレイアウトを工夫しました。

COMMENT 担当者より

【nonowa稲城長沼】根本、【セレオ国分寺】牛若、【地域活性化部】村松、【タウンプロモーション部】山口

この成功を、次の賑わい創出へつなげたい

「まだ入社2年目ですが、職業務と並行しながら自分たちでもこうしたイベントができるんだと自信になりました」(写真左/根本) 「法被デザインで参加しました。普段は駅の社員と一緒に仕事をする機会が他部署に比べ少ないので、新鮮で楽しかったです。当日の雰囲気もとても素敵でした」(写真中央左/牛若) 「こうしたイベントはいかに

継続できるかが大きな課題。目的意識をブラさず、次へバトンを渡せるような仕組みをきちんと作っていきたいです」(写真中央右/村松) 「地域活性化部として企画に参加し、稲城長沼駅のメンバーとしっかり会話し協業できたことがよかったと思います。今は別の部署に移りましたが、この経験を活かしていきたいです」(写真右/山口)

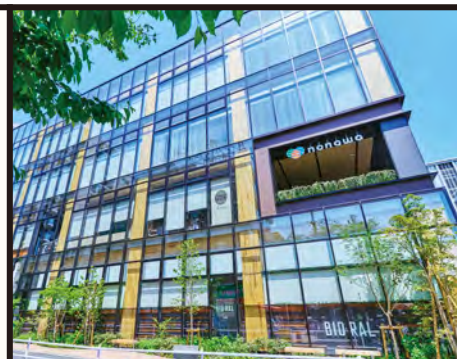




02 nonowa国立SOUTH

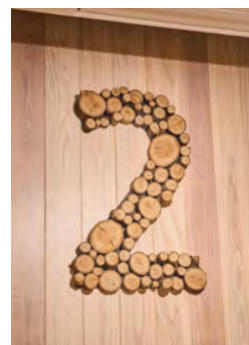
地域・環境と調和する
駅の新たなシンボルが誕生

2024年3月、国立駅前に「nonowa国立SOUTH」が開業しました。「地球と、地域と、身体に心地よい『ソーシャルグッドリビング』」をテーマにした、JR東日本グループ初の木造商業ビルです。国立らしさを守り、地域の皆さまに愛され続ける、サステナブルな商業施設を目指していきます。



地域への配慮をなくさず、愛され続ける建物へ

古くからの建物が数多く残る国立市は、景観に対して高い意識を持つ地域です。そんな街の玄関となる国立駅に、2020年より開発が始まった「nonowa国立SOUTH」。国立駅前の貴重な場所をどう使うべきなのか慎重な議論が進められてきました。開発のコンセプトとなったのは、街の風景と調和するサステナブルな建物であること。建物の構造に中高層木造建築の技術を導入し、この規模の商業施設としてはあまり前例がない木造構造としました。外観はガラス張りですが、木の柱が透けて見えることで落ち着いた雰囲気に。国立のシンボルである旧国立駅舎（※市指定の有形文化財）と並んでも自然なデザインになりました。



国立市役所の敷地内で伐採された桜の木をCCDが直接譲り受け、ハンドメイドで作られたフロアサイン。

内装もエネルギーも“サステナビリティ”を徹底

サステナビリティへのこだわりは、内装にも表れています。多摩産材の杉や、市内で伐採された桜の木、リサイクル材のレンガ調タイル、再生繊維を使ったバナーなどが随所に使われ、館内に心地よさをもたらしています。さらに館内の使用電力は、風力発電によるもので実質再生可能エネルギー100%を実現。これは、再生可能エネルギーの発電・電力売買するための電力契約「PPA」を住友商事グループと開始したことによるもので、国内でも先駆的な企業間PPAの取り組みです。前例の少ない数々の挑戦を重ね、地域や環境との共生を目指す「nonowa国立SOUTH」。今後も地域に愛され続ける商業施設としての成長を目指していきます。



多摩産材などが使われ、木のあたたかみが感じられる内装。電力には風力発電由来の自然エネルギーを活用しています。

COMMENT 担当者より

【タウンプロモーション部】渡辺、将堂、【経営企画部】森

私たちのビジョンと思いが形になりました

「たくさんの苦労がありましたが、最終的には国立在住のデザイナーさんとも協業し、意義のあるチャレンジだったと思います。今後は国立全体でサステナビリティの意識を高めていきたいです」（写真左/渡辺）
「担当者のこだわりが、本当にたくさん詰まった建物です。国立は古くから愛され続ける建物が多い街なので、

nonowa国立SOUTHもこの先そうなって欲しいですね」（写真中央/将堂）
「『ここにしかないくらしをつくる』を掲げる会社として、私たちが目指すものを具体的な形として見せることができました。当社を象徴する建物になったと思っています」（写真右/森）



03 セレオ甲府屋上マルシェ

新たな出会いを生み出す
屋上マルシェを開催

いつでも富士山が望めて、小江戸甲府の夏祭りには花火も見られる。そんな甲府駅の穴場スポットが、セレオ甲府の屋上広場です。せっかくのロケーションを活かそうと、2023年夏より「セレオ甲府屋上マルシェ」がスタート。解放的な雰囲気のもと、新しい地域の魅力と人々のつながりが生まれています。



地域のお店を応援できるイベントへ

「セレオ甲府屋上マルシェ」は、甲府駅直結のセレオ甲府6階屋上広場で定期的に行われるマルシェイベントです。初回は2023年夏、小江戸甲府の夏祭りに合わせて実施され、その後もクリスマスや春など季節ごとに開催されています。屋上の有効活用という狙いのほかに、地元のスモールビジネスを応援したいというセレオ甲府の思いも開催のきっかけとなりました。そのため、マルシェに出店しているのは地元で活動するショップや独立系飲食店の方々。以前からセレオ甲府が催事でお世話になっている「コリアンキッチンMikan」が出店者同士の連絡役も担ってくれるなど、頼れる地域プレイヤーの存在も屋上マルシェを支えています。



大好評の高校生による吹奏楽演奏。その他にも、バルーンアートやヨーヨー、お絵かきなどのプチイベントを行っています。

新たな発見と出会いを促していきたい

屋上マルシェで好評なのが、市内の高校生による吹奏楽の生演奏です。毎回2、3校の高校吹奏楽部が登場し、代わる代わるの生演奏を披露。高校生の友人や家族も駆けつけ、演奏中は出店者も思わず踊ってしまうほどの盛り上がり！その場で合同アドリブ演奏も行うなど、学校同士が交流できる素敵な機会にもなっています。車社会の甲府では、生活圏内以外に足を運ぶことが意外と少なく、新しいショップや普段接することのない人々との出会いが限られがち。「マルシェがあるからセレオに行こう」と駅に行くきっかけを作り、そこで新たな出会いの場を創出する。こうした発見と出会いの機能を、この先もさらに強化していきたいと思っています。



小江戸甲府の夏祭りに合わせ、「セレオ甲府の夏祭り」として開催された第1回。屋上が絶好の花火鑑賞スポットに。

COMMENT 担当者より

【セレオ甲府】今野、小川

知られざる魅力を、もっと発掘&発信したい

「私は甲府が地元ですが、屋上マルシェをやるようになって、まだまだ知らない人気ショップや素敵な事業者さんがいらっしゃるんだと再発見しています。これからも地域の魅力を見つけ、出店へとつなげていきたいと思っています」
(写真左/今野)

「まずは地元の方に知っていただくことが最優先ですが、ゆくゆくは観光客の集客にもつなげていきたいです。中央線で甲府まで足を延ばしていただけるよう、地域コミュニティの魅力最大化を目指していきます」
(写真右/小川)



04 にしこくおみやげプロジェクト

西国分寺らしいおみやげを
地域の方々と共に開発

自分の住む街に、人に自慢できるお土産があったらいいな。そんな地域の方からの声を受け止め、「ならば自分たちで生み出そう!」と始まった「にしこくおみやげプロジェクト」。にしこく愛の強い協力先の方々と試行錯誤して、地元産野菜を使った“ここにしかない”スイーツを開発・販売しています。



専門性と地元愛を活かしたコラボレーション

乗り換え利用客の多い西国分寺駅では、乗り換えまでの待ち時間を有意義に過ごせる場所の提供が長年の課題となっていました。そこで、まずは駅利用者の声を聴いてみよう、と、投書箱やオンラインでアンケートを実施。さらにお客さまへ直接お声がけし、じっくりヒアリングを行いました。その結果、「軽食を食べたい」「西国分寺らしいお土産が欲しい」との意見が寄せられ、西国分寺のお土産となるスイーツを開発することに。もちろんこれは、西国分寺駅にとって初めての試みです。お菓子の製造を手掛ける地元の社会福祉法人AnnBeeや、マーケティングを学ぶ東京経済大学の小木ゼミナールの協力を得て、「にしこくおみやげプロジェクト」がスタートしました。



イラストが得意な社員が一枚一枚手書きで作成した「おみやげプロジェクト通信」。

お土産の魅力を、ストーリーと一緒に伝える

プロジェクトでこだわったのは、スイーツの素材に国分寺産の野菜「こくベジ」を使うこと。1回目の販売会では、こくベジを使ったAnnBeeの既存商品を詰め合わせたギフトセットを販売し、2回目からは国分寺産のいちごを使用したフィナンシェなどの新商品を開発しました。さらに手書きの「おみやげプロジェクト通信」を駅に掲出し、開発ストーリーを発信。これにはAnnBeeや大学関係者の方々から多くの関心をお寄せいただき、さらにプロジェクトを知った駅周辺のショップから「自分たちも参加できないか?」との嬉しいご意見もいただきました。今後も地域の方々と連携し、“ここにしかない魅力”の詰まったおみやげの開発を継続していきます。



販売会には社員はもちろん、東京経済大学の小木ゼミの学生も参加しました。

COMMENT 担当者より

【nonowa西国分寺】伊藤、豊田、天野、石井

駅を起点に、地域の“内側から”魅力を発信したい

「開発やデザインをすべて外部に任せるのではなく、地域の皆さまの力を借りつつできるだけ自分たちで作り上げていきたいです。地域の魅力を再発見しながら、駅の中だけでなく地域全体の活性化につなげていきたいですね」
(写真中央左/豊田)

「駅という公共性の高い場所を使った今回のプロジェクト。学生や地域に根差した企業を巻き込んで、一緒に進められたことに意義があると思います。今後も様々な人に“活躍の場”を提供していきたいです」
(写真右/石井)



定義を書き換える、新たな事業を

交通や買い物のために来る人々を迎えるだけの駅から、
もっと地域の生活に溶け込み、共に暮らしと文化を創造する場所へ。
自由な発想で「駅」の定義を書き換えながら、幅広い分野で新たなサービスを展開しています。

【SERVICE】

1



ショッピングセンター

CELEO Dila nonowa

沿線において、ショッピングセンター「セレオ」「nonowa」「Dila拝島」を展開。地域で活動している皆さまとも協業し、地域性のある施設づくりを目指しています。

2



駅運営

ものづくりのわ くらすクラス

中央線・南武線の一部駅の運営をしているほか、駅独自のイベントも企画・実施しています。

3



教育

PregLab RAKUTO

子ども向けロボットプログラミング教室「プログラボ」などを運営。沿線地域の教育機関との連携にも力を入れています。

4

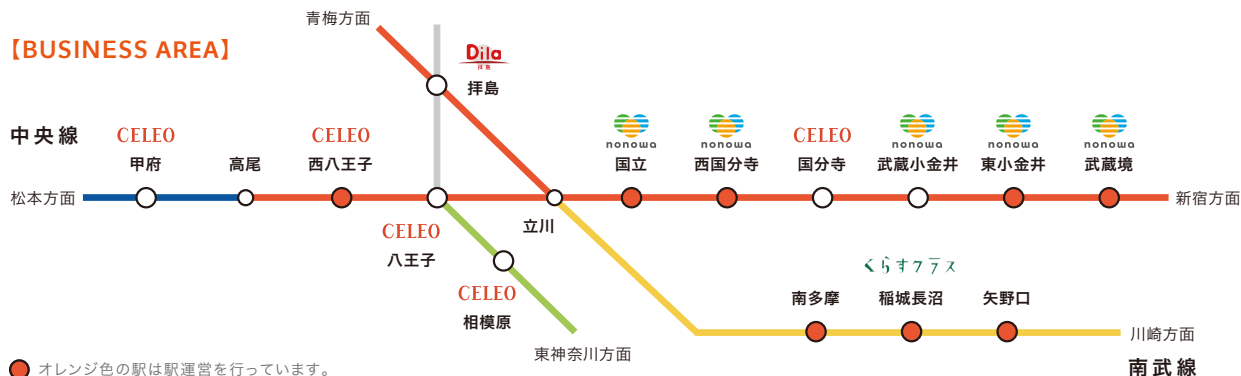


多様なくらしづくり

Chuo Line House KOGANEI STATION SWITCH 八王子

地域に根差したイベントの開催や、ビジネス創出につながるさまざまな支援、新たな空間活用など、地域活性を目指した多様なくらしづくりを行っています。

【BUSINESS AREA】





| SERVICE & NEWS |

1

ショッピングセンター

セレオ国分寺10周年

2013年10月25日に名称変更をした「セレオ国分寺」は、長きにわたるご愛顧に感謝し、2023年10月7日から10月31日にかけて「10周年アニバーサリーフェア」を開催。多くのイベントや企画で盛り上がりました。

国分寺の魅力を地元大学生が表現

メインビジュアルは地元武蔵野美術大学の山下咲香さん(造形学部4年生)に制作いただきました。国分寺で300年間大切に引き継がれてきた農地で育まれた地元野菜「こくベジ」の畑や、日本の宇宙開発発祥の地であることを表現したロケットなど、国分寺ゆかりのモチーフを使い、豊かな自然・歴史・文化など地域とのつながりを大きな円で表現。カラーはセレオのブランドカラーである「セレオ パッション オレンジ」を使用し、セレオと地域との一体感を表現しました。

「セレオ国分寺 こどもマルシェ」で
国分寺らしさを楽しむ

セレオ国分寺ではお子さまに販売の楽しさや難しさを知ってもらうため、そしてなにより「国分寺らしさ」楽しんでもらうため、小学生によるフリーマーケット「セレオ国分寺 こどもマルシェ」を開催しました。「地域通貨ぶんじ」を通貨として利用し、その交換先として「こくベジ」「ぶんじ米」を用意。こども店長もお客さまも「国分寺」を存分に楽しむイベントとなりました。

イベント・キャンペーン盛りだくさん

セレオ国分寺正面入口にアニバーサリーボードを設置し、お客さまからお寄せいただいた10年分の思い出や、ショップからお客さまへの感謝のメッセージを掲出。館内を感謝の気持ちでいっぱいにしました。また、特別イベントとして国分寺・多摩物産展を実施。「E探野菜マルシェ」では「こくベジ」をはじめとする地元野菜や加工食品の販売を行い、地元の生産者を応援しました。地元学生との協業イベントも開催し、鉄道の日には白梅学園清修中高一貫部の生徒によるNゲージジオラマ優秀作品を展示、ハロウィンでは国際文化理容美容専門学校国分寺校の学生と協力し、仮装キッズへのフェイスペイントを実施。さらに国分寺市イメージキャラクター「ぶんじほたるホッチ」とのコラボキャンペーンも行うなど、盛りだくさんの10周年でした。今後も地域とのつながりを大切にし、地域に愛されるショッピングセンターを目指していきます。

沿線において、ショッピングセンター「セレオ」「nonowa」「Dila拝島」を展開。地域で活動している皆さまとも協業し、地域性のある施設づくりを目指しています。

CELEO



国分寺らしさを表現した、セレオ国分寺10周年のメインビジュアル(左)。



「セレオ国分寺 こどもマルシェ」ではミュージシャンを招いた音楽イベントなども開催され、親子連れて賑わいました。



国分寺市イメージキャラクター「ぶんじほたるホッチ」も登場。特別プレゼントとしてコラボグッズも用意しました。



| SERVICE & NEWS |

1

ショッピングセンター

こくベジ

「こくベジ」とは国分寺市内の農家が生産した農畜産物の愛称です。その魅力を広げるために立ち上がった「こくベジプロジェクト」に、セレオ国分寺も2017年より参加。

館内の飲食店でこくベジを使用したメニューを提供するほか、販売会やイベントも積極的に開催しています。

300年続く地元農業の力になりたい

国分寺市は東京都の中でも3番目に農地面積率が高く、新田開発が始まった江戸時代より市内全域で農業がさかんに行われてきました。しかし近年は、宅地化による農地の減少や後継者不足が大きな課題に。そこで、JA東京むさし国分寺地区、商工会、観光協会、農家、飲食店、企業、NPO、国分寺市、有志と多岐にわたる人々が関わりながら、農業課題の解決と地域の新たな観光資源発掘を目的として「こくベジプロジェクト」がスタートしました。

セレオの安心感も人気の理由

セレオ国分寺が同プロジェクトに参加することになったのは、こくベジを知ったある社員が「自分たちも何か力になれるかもしれない」と思ったことがきっかけです。主な取り組みとしては、館内の飲食店8店舗が通年または期間限定でこくベジを使ったメニューを提供するほか、1Fの自由通路では「こくベジ販売会」を開催。お客さまは「こくベジ直売所マップ」を手に訪れるファンや、食育に関心の高い子育て層、地域社会貢献に興味のある学生などさまざま、多様な人々が行き交う立地の良さもさることながら、「セレオ国分寺」が築いてきた安心感や信頼も野菜の手に取りやすい要因になっていると思います。

若い世代と一緒に盛り上げる

ここ数年で力を入れているのは、生産者の農地見学をはじめとする体験型イベントの開催です。募集するとすぐに定員が埋まってしまう「子ども向け販売体験」は、子どもたちが野菜についての学習から値札づくり、実際の販売までを体験できるイベント。最初は緊張気味だった子どもたちも、いざ呼び込みをはじめとお客さまが足を止めると一気に楽しそうな表情になります。また、2022年11月には東京経済大学SDGs学生委員会とのコラボレーションイベントも実施。館内で「こくベジ」を扱うショップをまわるスポットラリーや、販売できない規格外の野菜を使った塗り絵ワークショップを企画し、家族連れを中心に盛り上がりを見せました。若い世代のアイデアや思いを積極的に受け入れているのも、こくベジプロジェクトの特徴の一つです。



「こくベジ販売会」では、地元の野菜にたくさんの人が興味津々!



1Fのベーカリーカフェ「アンデルセン」とコラボし開催した「アンデルセン×こくベジ」では、こくベジをたっぷり使用し大好評。



大人気の「子ども向け販売体験」は、食育はもちろん職業体験の場にも。



| SERVICE & NEWS |

2

駅 運 営

ものづくりのわ・もののわ

地域で暮らす障がいのあるクリエイターを支援しようと、2020年9月に国立駅で始まった「ものづくりのわ」。
駅内のスペースで小物販売とワークショップを定期開催し、ストーリーのあるさまざまな「もの」が
地域の魅力の再発見と新たな出会いをもたらしています。

クリエイター、地域の方々、駅社員がつながる

「ものづくりのわ」は、障がいのあるクリエイターが製作した雑貨を扱うセレクトショップ「SOU」の代表・友田由香さんを企画に迎え、2020年にスタートした取り組みです。現在は中央線沿線の福祉施設にご参加いただき、国立駅で販売会やワークショップを開催しています。陶器の電車模型やつり革のキーホルダーなど、駅でのイベント用に製作されたアイテムが人気を集め、ものづくりを体験できるワークショップは親子連れを中心としたお客さまで毎回大盛況。地域の関心とニーズ、そしてクリエイターの熱意がマッチした、まさに“この駅ならではの”イベントとして定着しています。国立駅での好評を受け、2022年はショッピングセンターのセレオやnonowa、グランデュオ立川、知的障害児者福祉施設・滝乃川学園でも「出張ものづくりのわ」を開催しました。運営する駅社員たちも積極的にアイデアを出すようになり、「ものづくりのわ」を自分たちが育てているという意識がしっかり根付いています。

商品とストーリーを発掘して届ける「もののわ」

「ものづくりのわ」の開催後、お客さまからは継続販売を望む声が多く寄せられました。そうした中で新たに生まれたのが、駅社員が改札内で商品を販売する「もののわ」の企画です。当初は「ものづくりのわ」関連の商品を扱っていましたが、次第に駅社員が自ら地域ゆかりのアイテムを探して販売するように。販売場所となるのは、駅の改札。駅構内のショーケースに商品を展示し、お客さまからの要望を受けて改札で駅社員が販売するという、他の駅ではなかなか見られないスタイルです。「地域PRの場」としての役割も担う、ユニークな取り組みへと進化しています。「もののわ」が大切にしているのは、ストーリーのある商品を扱うこと。その代表的な商品が、あきる野市の「南沢あじさい山」で作られたリースをそのままの形で一年後に土に還す「里帰りするあじさいリース」や、国立市の都立第五商業高校の生徒が企画・開発したメイクブラシ「MIRY」です。ストーリーを丁寧に伝えることで観光のきっかけや新たな出会いにつながり、「もののわ」からまさに新たな“輪”が広がっています。

中央線・南武線の一部駅の運営をしているほか、駅独自のイベントも企画・実施しています。

ものづくりのわ



販売会の際には、駅社員が率先してアナウンスを行い集客。



クリエイターの感性が溢れる一点物の作品たち。



地域の高校生が企画・開発したメイクブラシ。販売には高校生も参加しました。



| SERVICE & NEWS |

2

駅 運 営

くらすクラス

稲城長沼駅近くの高架下にある「くらすクラス」。
地域のコミュニティ拠点として、日々の交流からマルシェの開催、
地域学習イベントなど積極的な活動を展開しています。

マルシェにダンス、 地域学習まで!

「くらすクラス」は、多世代が交流して地域コミュニティを生み出すきっかけとなることを目的に、稲城長沼駅近くの高架下にJR東日本が立ち上げた交流拠点です。2021年度からはJR中央線コミュニティデザインが運営を担い、これまでの活動を継承するとともに、駅ならではの役割や個性を発揮した新たな企画を続々実現させています。普段は専属スタッフを中心に音楽や読み聞かせ（「よりみち広場」）などを不定期に行い、駅社員も駅業務の合間に広場を巡回。制服姿の駅社員たちは子どもたちからも大人気です。月1回程度週末に開催される「くらすクラスマルシェ」では地元のショップや作り手の方々が出店するほか、駅社員のダンスチーム「エキザイル」がダンスを披露することも!駅と地域の方々との距離を縮めながら、これからも「コミュニティ拠点」としてさまざまな活動を行っています。

くらすクラス



高架下でも暗さをまったく感じさせない「くらすクラス」。芝生エリアもあり、子どもが安全に過ごせて、多様な地域の人が交流する拠点になっています。

手荷物預かりサービス

国立駅では、近隣大学の入試に合わせて、
受験生を対象とした「手荷物預かりサービス」を実施。
多くのお客さまから感謝の言葉をいただきました。

声をきっかけに、 受験生のお困りごとを解消

国立駅での手荷物預かりサービスは、お客さまの「荷物を預けるところがない」という声を聞いた駅社員が発案し、2022年・2023年と2年連続で実施された独自の取り組みです。2023年は入試前日に事前アナウンスや告知を行い、その効果もあって前年を上回る109件の利用がありました。親子で遠方から受験に来られたお客さまから「はじめて来た場所で何も分からないなか、荷物の心配が解消され、おかげで受験に専念できそうです」「煩わしいロッカー探しがなく改札内で預けられるのはナイスなアイデアですね!」との感想をいただくなど、好評でした。好意的なご意見を多数いただき、来年以降の継続実施に向けて手ごたえを感じられました。今後も社員の気づきアンテナを高くし、お客さまに喜んでいただける企画を実施していきます。



受験生に大好評だった手荷物預かりサービス。混雑が起らないよう、当日は駅員による誘導も実施しました。



| SERVICE & NEWS |

3

教育

プログラボ

子ども向けロボットプログラミング教室「プログラボ」では、中央線等の沿線地域の子どもたちに「未来を生きるために必要な力」をつけてもらうことを目的とした教室運営を行っています。

プログラミングを通じ、未来を生きる力を育む

これからの時代に求められるプログラミング的思考・技術を地域の子どもたちに提供し、「自ら課題を見つけ、解決する」といった未来を生きるために必要な力を身につけてもらうことを目指し、2016年に関西で子ども向けロボットプログラミング教室「プログラボ」の運営が始まりました。2018年にフランチャイズ化されたのを機に、JR中央線コミュニティデザインの教育事業の取組みとして「プログラボ」の運営を開始しました。

運営教室数は15校、生徒数は1,000名を突破！

2018年4月にJR中央線沿線に2校を開校し、以後中央線沿線を中心に京王線や西武池袋線の沿線を含む西東京エリアに新校を開校。2024年4月時点で15校（校内教室を除く）を展開するまでに拡大し、1,000名を超える生徒が通っています。また、近隣の私立小学校や幼稚園の正課や放課後の習い事として授業を運営し、より多くのお子さまがロボットプログラミングに触れる機会を提供しています。今後も、沿線地域の子どもたちのSTEAM教育※に貢献し、未来を担う子どもたちの成長を見守っていきます。

RAKUTO

教育事業の新たな取組みとして、探求学習塾「RAKUTOひばりヶ丘校」の運営を開始しました。

「自ら課題を見つけ解決するチカラ」をさらに幅広く育む

2024年2月からフランチャイズとして探求学習塾「RAKUTOひばりヶ丘校」の運営を開始しました。「近未来を生き抜く、探究脳を」をキャッチフレーズに、自発力、発見力、思考力、コミュニケーション能力、表現力など、子どもたち自身が未来を切り拓き、生き抜くことができる成長の土台となる探究脳を育てています。

ディスカッションやマインドマップをはじめ、脳科学と長年の経験に基づいた独自のメソッドで、勉強に取り組む子どもたちの目が輝き、一人ひとりの10年後、20年後が輝くことを目指した教室運営を行っています。

※科学 (Science) ・技術 (Technology) ・工学 (Engineering) ・アート (Art) ・数学 (Mathematics) の5つの領域を横断的に学ぶ教育のこと

ロボットプログラミング教室「プログラボ」などを運営。沿線地域の教育機関との連携にも力を入れています。



2023年度時点で1,000名を超える生徒が通うプログラボ。



学習塾のような堅苦しい雰囲気はなく、カラフルな内装に。



新たに開校した「RAKUTO」で、目を輝かせて学ぶ子どもたち。



| SERVICE & NEWS |

4

多様なくらしづくり

中央線と暮らすアプリ

2022年11月にローンチしたアプリ

「中央線と暮らす」は、地域の方々との継続的な接点づくりを目指して誕生しました。

コアな”中央線ファン”を増やす
自社プラットフォームとして

JR中央線コミュニティデザインでは地域活性化事業をはじめさまざまな方法で地域の方々との接点を拡張していますが、そうした接点を継続させる手段がないことが課題でした。そこで、こまめな情報発信やイベント連携によってつながりを保ち、中央線のコアファンを増やそうと2022年に開発されたのが「中央線と暮らすアプリ」です。各ショップやイベントの最新情報を提供するほか、イベントと連動したクーポンのダウンロードやスタンプラリーの実施、社員自らが執筆する連載コンテンツも配信。今後はECサイトやイベントチケット販売などの決済機能を強化し、地域の事業者が広告出稿できる仕組みも整えていく予定です。将来的にはユーザー一人ひとりに合わせた情報を配信するなど、コミュニケーション手段としてさらに発展させ、住み続けられる街づくりに貢献していきます。

SHARE DEPARTMENT

「SHARE DEPARTMENT」は、フードビジネスを志す地域事業者向けの新たな創業支援施設です。

“自分サイズの小さい”を支援するために

2023年5月1日、稲城長沼駅～矢野口駅間の高架下にシェアオフィスとシェアキッチンからなる創業支援施設「SHARE DEPARTMENT」を開設。この場所は地域コミュニティの拠点となる「くらすクラス」の広場として、地域の方々に親しまれてきました。その一部を整備し、株式会社タウンキッチンとの協業によりこれまで育んできた地域とのつながりを引き継ぎながら、フードビジネスなどを志す地域事業者への支援を行う場として誕生しました。本施設は飲食店などが営業できる専用区画「ROOM」のほか、シェアキッチン「8K」、シェアオフィス「BOOTH」、シェア教室「CLASS」、キッチンカーや屋台を出店できる「GARAGE」など多彩な区画を提供。地域の方々による小売や職住近接のライフスタイルを後押しするとともに、コミュニティの形成を目指します。

地域に根差したイベントの開催や、ビジネス創出につながるさまざまな支援、新たな空間活用など、地域活性を目指した多様なくらしづくりを行っています。



アプリ名やロゴも社員たちが考案しました。



イベントと連動し、謎解きスタンプラリーなどを実施。



社員が沿線地域を散策し、自ら執筆する連載コラム。



飲食店の開業にぴったりの、電気・水道・ガスが整備されたシェア区画。



| SERVICE & NEWS |

4

多様なくらしづくり

地域活性化イベント

JR中央線コミュニティデザインでは、
マーケットやイベントの開催を通じて
地域のクリエイターやショップの皆さまのコミュニティをつなぎ、
この場所ならではのビジネスが生まれる
きっかけづくりを進めています。
その一例となる2つのイベントをご紹介します。

【中央線パンまつり】

2020年2月に始まった「中央線パンまつり」は、個性豊かなパン屋から行って見たかった名店まで、中央線沿線のベーカリーが集結するイベントです。これまでnonowaなど駅ショッピングセンターで開催していた催事イベントでもパンのテーマが好評だったことから、「パンを中心にした沿線コミュニティを盛り上げたい」、という考えのもと始まりました。イベントの企画運営には、「中央線ビールフェスティバル」も携わる株式会社スイベルアンドノットが参加し、出店者とのつながりを広げながら年々規模を拡大させています。2023年の第5回の開催では、「中央線パンまつりならではの商品もあると面白そう」という思いから、駅社員が考案したパンを地元のベーカリーが商品化し、イベント限定のオリジナルパンを販売しました。地域の個人店と沿線住民をつなぎ、お店のファンを増やし、駅ショッピングセンターにも出店いただく、そんなサイクルを目指す「中央線パンまつり」。JR中央線コミュニティデザインならではの特徴と管理するアセットを活かし、中央線沿線の地域交流と文化創出に貢献しています。



駅社員が考案し、地元のベーカリーが商品化したオリジナルパン。



地元ベーカリーと地域の方々とたくさんの交流が生まれています。

【イートローカル探検隊】食から地元の魅力を再発見

「イートローカル探検隊」とは、参加者が隊員となって地元の食や農業を楽しく学べるコミュニティ形成型プログラムです。「おいしいは、地元にあります!」をモットーに、多摩地域で活動されている生産者や農家を訪れて、地元の魅力を発見する「探検」と、農家の取り組みを知り実際に農業のお手伝いを行う「援農」を企画・運営しています。「探検」では座学形式で講師の方から食や農業にまつわるテーマを学ぶゼミナールもあり、座学をした後に実際に生産者の元に訪れることでより理解が深まります。この取り組みは、多摩エリア130軒の農業者ネットワークを有する農産物流通ベンチャー会社エマリコにたちとの連携によって実施されています。豊かな農業生産の舞台である多摩エリアの魅力を効果的に発信するとともに、食や農を通じた新たなコミュニティづくりを目指していきます。



地元の農家を直接訪れ、実体験を通じて農業や地産地消への理解を深めます。



| SERVICE & NEWS |

4

多様なくらしづくり

はちまるステーション

地元密着型アンテナショップ「はちまるステーション」では、八王子・多摩エリアで活躍する生産者さまたちの想いやこだわりが詰まった商品・作品をお届けしています。

商品販売にとどまらない、
地域の魅力発信拠点

「はちまるステーション」は、2021年12月にセレオ八王子北館2階にオープンした直営アンテナショップです。八王子・多摩エリアを中心に活動する約50の事業者の方と連携し、地元の野菜や地域で愛されるベーカリー、お土産にぴったりの和洋菓子やコーヒー、地域で活躍する作家の作品など、地域生産者のものづくりへの想いや魅力が感じられる商品を揃えています。店頭での商品販売や試食・試飲会にとどまらず、作家による陶芸体験教室や地域農家での収穫体験イベントなど、お店の外に飛び出す企画も実施。お客さまご自身が生産者の想いを直接感じられるような取り組みに力を入れています。2023年7月からは八王子市の「ふるさと納税」にも出品を開始。今後もアンテナショップという枠を超え、地域の魅力発信拠点としての役割を果たしていきます。



八王子駅北口につながる、セレオ八王子北館2Fの入り口すぐの店舗。パンやお菓子、新鮮な野菜が、通りがかる人の目を引きまします。

ひとはこやカフェ

JR東日本のグループ会社が運営しているのに、駅の中にも周辺にもない。
そんな一風変わった拠点が三鷹の住宅街にあります。

やりたいこと(想い)を実現できる
きっかけの場になる

「ひとはこやカフェ」は、地域の皆さまのニーズや課題をより身近に感じ取れるよう、2023年3月に、駅から離れた静かな住宅街にオープンしました。これまで来店者の方とのコミュニケーションを重ね、今では多種多様なイベントなどを開催しています。例えば、親子向けの小さな縁日や、多世代の皆さまと一緒に楽しむことのできる参加型イベントなど。さらには、子育てがひと段落ついた方がワークショップを開いたり、地域の若手起業家が想いを伝える場所になったりすること。店の想いに共感してくれた人々のかかわりで、「ひとはこやカフェ」はなりたっています。イベント実施後には、結果のフィードバックなどを通じて次の展開と一緒に考えます。これも「ひとはこやカフェ」の大切な役割の一つ。こうした出会いを通じ、地域との多彩なかかわり方を模索していきます。



ワークショップやセミナーなど、地域の人たちが集い意見を交換し合えるコミュニケーションの場にもなっています(上)。
カフェで人気の「おむすび御膳」。メニューは月替わりでの提供です(左)。



マスターリース・プロパティマネジメント事業

2022年10月より、JR中央線コミュニティデザインはマスターリース・プロパティマネジメント事業に参入しました。

ショッピングセンター運営で培ったノウハウを不動産分野へ

中央線沿線における事業フィールドをマチナカへと拡張する取り組みの一環として、JR中央線コミュニティデザインはマスターリース・プロパティマネジメント事業に参入しています。不動産のオーナーから委託を受けショッピングセンターの運営管理を代行する「プロパティマ

ネジメント」においては、収益性の向上とオーナーへの還元が求められます。当社ではショッピングセンター運営で培ったノウハウを活かし、オーナーやテナントのニーズをきめ細やかに汲み取ることで、収益性向上を目指しています。

中央ラインハウス小金井

中央線の東小金井駅と武蔵小金井駅のほぼ中間、高架下およそ350mの区間に渡って位置する学生向けの賃貸住宅です。

地域交流も楽しめる、新スタイルの学生寮

デザインコンセプトは、「プライベートに配慮しつつも、交流を育み新しいライフスタイルを提案すること。建物を大きく3タイプのエリアに分け、プライベートを重視する学生から、充実した共用部設備を活かした同居者同士の交流を楽しみたい学生まで快適に暮らせる工夫をしています。騒音・振動・防犯対策も万全で、地元野菜を使った管理栄養士監修の食事も付いた、心身ともに安心して暮らせる新発想の学生寮です。

Chuo Line House
KOGANEI



高架下の高さを活かした、最大3.5mの天井高が特徴。

STATION SWITCH セレオ八王子

セレオ八王子北館9階にある駅直結のコワーキング施設。個人・法人を問わず、多様な方々にご利用いただいています。

仕事や勉強はもちろん、 情報発信の場にも

セレオ八王子の「STATION SWITCH セレオ八王子」は、仕事に限らず勉強やサークル活動にも活用できるコワーキングスペースです。月額会員プランのほかに一時利用プランも用意し、法人から個人の社会人、学生まで幅広くご利用いただけることが特徴です。これまでに、講師を招いた各種セミナーの開催や創業支援サービスのご案内を行うほか、最近では施設内の棚を活用した情報発信も開始しました。今後も「STATION SWITCH」では、さまざまな人の仕事や自己研鑽を支援していきます。

STATION SWITCH | 八王子



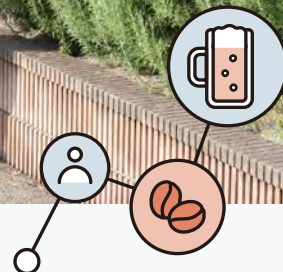
ワークスペースはオープンエリアと私語禁止で集中できる会員専用エリアに分かれ、WEB会議やオンライン授業に使える個別ブースも完備。

スイベルアンドノット (中央線ビールフェスティバル実行委員会)

【代表取締役】見木久夫さん

多様な立場の人たちをつなぎ、 地域の魅力を一緒に育む

すっかり名物イベントとなった「中央線ビールフェスティバル」。
実行委員を務める地域密着型広告制作会社「スイベルアンドノット」の
見木さんに、地域活性化において大事なことをお聞きしました。



この会社はちょっと違う

当社はJR中央線コミュニティデザインの前身であるJR中央ラインモールと同時期に設立しています。私たちが地域で開催するイベントに、当時の社長がよく顔を出してくれたことから、次第に親しくなりました。実はそれまでJRといえば堅いイメージがあったのですが「この人たちは何か違うぞ、地域に対し積極的だな」という印象を受けました。その後、私たちが武蔵境駅の高架下にビールの醸造所を開くことになり、地域のビールコミュニティが広がったことから「中央線ビールフェスティバル」を開催する流れに。そこから派生した「ぼっぼやエールプロジェクト」や「中央線バンまつり」も、JR中央線コミュニティデザインと一緒に当社が企画運営を担っています。

地域と企業の間にある「温度差」に敏感に

企業が参加して地域活性化や盛り上げイベントを開く際、気を付けたいのは地域住民と企業との温度差です。何をもちて活性化とするかは立場によってさまざま。企業は人が集まり利益が出ればよくても、地元の小さなお店はお客さまが一時的に殺到しても困ってしまいます。厳しい言い方ですが、場合によっては企業が地元を搾取しているとも捉えられかねません。ですから、誰が旗振り役になるか、どんな立付けで取り組みを進めるかが非常に重要なのです。私たちの社名にある“スイベル”とは金属の接続部品の名前ですが、ここには「地域と企業の間に入って上手くつなぎ合わせる仕事がしたい」という思いが込められています。



地域にあるポテンシャルを、注意深く見つめよう

もう一つ重要なのが、取り組みの目的や意義を、参加する全員で共有すること。そして目的のために、自分たちのルールや考え方を柔軟に変えられる姿勢を持つことです。この点において、JR中央線コミュニティデザインは非常に柔軟な会社だと思います。おそらく参加する社員の方々自身が、仕事と割り切らず楽しんで働いているからでしょう。今後も、各駅のブランド性を高める企画に取り組んでいきたいですね。最近「駅の敷地を使って立ち飲み屋をやりたいな」なんて妄想しています。無いものを想像するのは難しくても、そこにあるものを注意深く観察すると企画のヒントが見つかるもの。JR中央線コミュニティデザインの皆さんも、ぜひ駅にある新たなポテンシャルを探してみてください。



中西ファーム (はちまるステーション 野菜生産者)

写真左【中西ファーム代表】中西雅季さん(右/「はちまるステーション」担当 地域活性化部 大熊)

駅と農家がつながって、 八王子をもっとおもしろく!

セレオ八王子のアンテナショップ「はちまるステーション」へ
新鮮で珍しい野菜を届けてくれる「中西ファーム」の中西雅季さんに、
JR中央線コミュニティデザインとのつながりや地域への想いをお話いただきました。



芸人から農家へ。魅力を発信する中で出会ったのが…

僕は八王子で代々続く農家の7代目に生まれましたが、若い頃は農業に全く興味がなく芸人として活動していました。20代後半になってようやく決心し、実家の「中西ファーム」を継ぐことに。目立ちたがり屋の性格なので、農家になって最初に思ったのが「こんなに面白い農家があるのになんで取材が来ないんだ!？」(笑)。真っ先にSNSを始め、中西ファームの魅力を発信するようになりました。それを見て声をかけてくれた企業の一つがJR中央線コミュニティデザインです。最初は八王子多摩物産展の出店に誘っていただき、お祭りマンだらけの僕は「やった〜おもしろそう!」と二つ返事でOKしました。今はセレオ八王子のはちまるステーションに、ほぼ毎日新鮮な野菜を届けています。

出店をきっかけに、新たなつながりも続々と

物産展やはちまるステーションでは、店頭に立って直接販売したり、収穫体験会を開いたりすることもあります。野菜を食べてくれる方々のお話を直接聞けるのは、生産者にとってすごくありがたいこと。JR中央線コミュニティデザインの別の事業に僕らを紹介していただく機会もあり、最近ではオリジナルのクラフトビールの原料に、中西ファーム産の八王子ショウガ(江戸東京野菜の一つ)を使っていただきました。生産者同士のつながりも生まれ、八王子のパン屋「いなこっぺ」さんとコラボして、はちまるステーションで惣菜パンを販売したことも。たまたま出会った生産者さんと「うちも“はちまる”に卸していますよ!」と意気投合することもあります。



担当者の、熱い姿が印象的だった

僕ら中西ファームは、野菜フェスやファームキャンプなど農家の域を超えた活動していますが、根っこにあるのは「八王子を盛り上げたい」という想い。JR中央線コミュニティデザインとは最初からその理念が共通していましたし、僕は何より、当時物産展の企画担当だったJR中央線コミュニティデザインの大熊さんが初めて中西ファームに来たときのことが忘れられません。地域の農家を回り、地元のおいしいものをリュック一杯に詰め込んで、歩いてやって来たんです!地域を知るためにここまでやるんだ、この人と一緒なら、と思いましたね。JR中央線コミュニティデザインを介して出会う生産者の方も、みんな同じように地域への熱い想いを抱いています。今後もつながりを広げ、八王子を盛り上げていきたいと思っています!



| 目指す働き方 |

【ワークスタイルと働き方データ】

自由な働き方と、それを叶える環境づくり

JR中央線コミュニティデザインでは、社員一人ひとりの好奇心とフットワークを可能な限り支援し、自由な働き方を叶える取り組みを行っています。

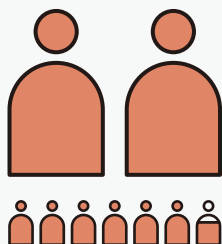
社員がいつでも活用できるオンライン研修サービスや個別面談、

オンライン相談サービスなどの制度も整え、働きがいを実感できる企業を目指していきます。

2024年04月01日時点

社員数

267人



2024年04月01日時点

構成比率

男性

61.4%

女性

38.6%



2024年04月01日時点

平均年齢

41.9歳

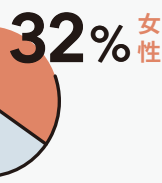


2024年04月01日時点

管理職比率

男性

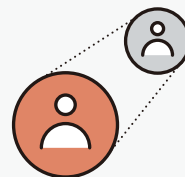
68%



過去3年(2021～2023年度)

中途採用数

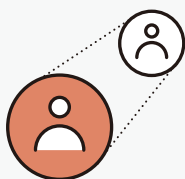
35人



2022～2024年度

新卒人数

22人



2023年度

離職率

4.1%



2023年度

月平均残業時間

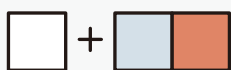
15.3時間



2023年度

平均有給休暇取得数

15日



2023年度

短時間労働人数

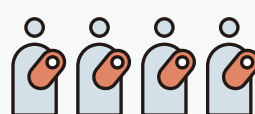
4人



過去3年(2021～2023年度)

育休取得人数(男性)

4人 (全体8人 うち4人男性)



| 目指す働き方 |

【若手インタビュー】

1

「やってみよう」が 駅で働くみんなの合言葉に

国立駅で駅業務とイベント企画を担当する2021年入社の梅澤。
学生時代には気づかなかった自分の中の積極性やリーダーシップを
発見し、駅のイメージチェンジに向け精力的に取り組んでいます。



雑談の中からも、次々とアイデアが生まれます

学生時代、旅行が好きでいろんな街に訪れるなかで、それぞれの街の“顔”とも言える駅の存在に興味を持つようになりました。就職活動では複数の鉄道関連会社を検討しましたが、他にはない魅力を感じたのがJR中央線コミュニティデザイン。地域の皆さまに寄り添う姿勢や、駅業務だけに限らない仕事の幅広さに惹かれて入社しました。国立駅は、当社バリューの一つである「やってみようを合言葉に」がもともと根付いています。社内の風通しも非常によく、私たち若手のアイデアも否定せず積極的に取り入れてもらえますし、社員同士の雑談の中からイベントや取り組みが生まれることも。居心地のよい環境で、新しいことにチャレンジできていると思います。



ニーズを肌で感じとり、駅をもっと身近な存在へ

国立駅で働きながら一番充実感を覚えるのは、お客さまから直接言葉をいただくことです。2年連続で開催した足湯イベントでは、参加した親子のお客さまから「今年もやってくれてありがとう」と声をかけていただき、楽しみにしてもらっているんだと実感しました。駅は安心・安全や正確性が求められる場所なので、ともしれば少し事務的で、堅い印象を与えてしまうことがあります。私はそうした駅の冷たいイメージを変え、もっと地域の方々に寄り添った、気軽に開けた場所にしていきたいです。そのために、駅の外へもたくさん足を運び、この街の魅力や求められるものを肌で感じながら、次の新たなサービスにつなげていきたいと思っています。



| 目指す働き方 |

【若手インタビュー】

2

熱意の連鎖で、
ここにしかないらしをつくる

2019年入社の村松は、自身も策定プロジェクトに参加したJR中央線コミュニティデザインの
ミッション・バリューを胸に刻み、地域活性化部で活躍中。
心の奥には、がんばる人を応援したいという純粋な思いがありました。



ここにしかないらしをつくるため、まずは自分が動く！

JR中央線コミュニティデザインでは2021年にミッション・バリューの策定プロジェクトを行い、私も若手ながらワークショップに参加して「こんな会社になりたい」という思いを仲間たちとたくさん話し合いました。現在のミッション・バリューには、その時のみんなの気持ちがしっかり散りばめられています。私が特に共感するのは、バリューにある「誰よりも深く地域を考えよう」「感謝の気持ちをエネルギーに」などの言葉。まずは自分がそれらを実践し、その姿を見て真似たい・応えたいと思ってくれる仲間を増やししながら、「ここにしかないらしをつくる」という私たちのビジョンをみんなで実現させていきたいと思っています。



がんばる人たちが活躍できる場を、駅に限らず広げたい

私は昔から「何か一つのことに打ち込んでいる人」にとても憧れがありました。イベントの出店者さまや事業者さまとお話すると、どんな背景で商品をつくっているか・なぜ取り組んでいるのかというストーリーをお聞きすることができ、「こうした人たちが活躍できる場をつくりたい、一緒に盛り上げていきたい!」と強く思います。今は中央線エリアの地域活性業務を担っていて、一つの駅で実施した企画を他沿線の駅で展開したり、街なかのショッピングセンターでイベントを出張開催したりする機会も徐々に増えています。こうして活躍の場を広げるとともに、私たちJR中央線コミュニティデザインの存在も知っていただき、地域における当社の存在価値を高めていくことが私の目標です。



| 目指す働き方 |

【若手インタビュー】

3

変えるもの・守るものを見極めて、
地域に寄り添うショッピングセンターへ

2014年に入社し、業務の中心を担うとともにマネジメントにも取り組む
セレオ八王子の清水川。学生時代から身近な存在であった「ショッピングセンター」の未来を、
熱く冷静なまなざしで見つめています。



等身大の「地域らしさ」を大切に

JR中央線コミュニティデザインでは、「セレオ」「Dila拝島」「nonowa」の3つのショッピングセンターを展開していますが、どれも一様ではなく、八王子なら八王子、甲府なら甲府の、それぞれの暮らしを表す施設にすることを目指しています。最近、セレオ八王子をご利用されるお客さまに直接インタビューさせていただく機会があったのですが、お客さまはトレンドの最先端に行く都心のショッピングセンターのような機能を求めて来店されるわけではなく、もっと身近な日常使いのショッピングセンターを必要とされていることが分かりました。地域の方々の声を実際に聞いたことで、そこにある暮らしを等身大で見つめ、フィットするショッピングセンターをつくっていく大切さを改めて実感しました。



何を変え、何を守るか。お客さまの声を聞きながら考える

とはいえ、一言でお客さまといっても多様な方々がいらっしゃいますし、ショッピングセンターもずっと同じでいいかと言えばそうではありません。パンデミックの影響で私たちのライフスタイルは大きく変わり、セレオも今まさに「変えるべきこと／守り続けること」の見極めをしているところです。2021年に会社が合併してJR中央線コミュニティデザインになってからは、セレオの販促企画やキャンペーンを考える際に「駅」の存在をより一層意識するようになりました。お客さまの暮らしを第一に見つめながらも、今まで以上に視野を広げ、地に足の着いた新しいショッピングセンターづくりに挑戦していきたいと思います。



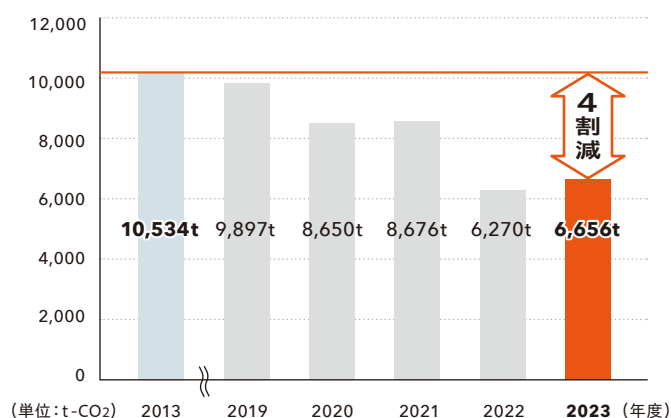
環境目標

JR中央線コミュニティデザインの環境目標

JR中央線コミュニティデザインでは、
JR東日本グループの環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ2050」の
実現に向け、さまざまな取り組みを行っています。

【CO₂排出量の削減と資源の有効活用】CO₂排出量およびリサイクル率の推移

CO₂排出量を基準年となる2013年度比で2030年までに50%削減、2050年までに実質ゼロを目標としています。2023年度はコロナの収束による営業活動の活発化に伴い、使用エネルギーが増加傾向となりましたが、CO₂を排出しない再生可能エネルギーの導入や老朽化設備の更新により電力およびガス使用量の削減を図りました。これにより、2013年度比でCO₂排出量を約4割削減しました。また、廃棄物については、排出量の削減とともにリサイクル率の向上に努め資源の有効利用に取り組んでいます。食品廃棄物等の生ゴミについては、バイオ処理による発電や家畜用の配合飼料原料とすることで、食品リサイクルを行っています。その他、契約書の電子化をはじめペーパーレス化の促進に継続して取り組んでいます。

【下】CO₂排出量推移

【下】資源利用とリサイクル率

年度	資源利用		一般廃棄物			産業廃棄物		
	エネルギー (原油換算) (kl)	紙資源(kg)	総排出量 (t)	リサイクル 処理(t)	リサイクル率 (%)	総排出量 (t)	リサイクル 処理(t)	リサイクル率 (%)
2018	5,799	9,472	4,494	2,225	50	1,037	870	84
2019	5,569	9,338	4,386	2,234	51	1,079	979	91
2020	5,060	6,919	3,524	2,583	73	836	756	90
2021	5,032	5,875	3,459	2,344	68	833	723	87
2022	4,828	4,346	3,507	2,399	68	826	743	90
2023	5,043	4,941	3,378	2,536	75	781	695	89

再生可能エネルギー

セレオ八王子では壁面を使用した太陽光発電を2012年から開始しており、エネルギー使用量の削減とともに、環境負荷のない再生可能エネルギーの導入にも積極的に取り組んでいます。2023年9月に住友商事株式会社、株式会社サミットエナジー、東日本旅客鉄道株式会社と国内初^{*1}となる風力発電所由来の電力の売買取引を行うオフサイト型コーポレートPPAの取組みを開始し、ショッピングセンターnonowa^{*2}の使用電力を再生可能エネルギーに切替えました。これにより、当該施設では使用電力におけるCO₂排出量はゼロとなり、当社全施設のCO₂排出量の2割削減を実現しました。



【左】風車のモチーフが象徴的な再生可能エネルギー導入ポスター。今後もさまざまな環境への取り組みを紹介していきます。

^{*1} 固定価格買取制度からフィード・イン・プレミアムに移行した風力発電所由来の電力による、オフサイト型コーポレートPPAの取組みは国内では初の取り組みとなります。

^{*2} nonowa武蔵境(EAST・WEST一部除外店舗有)、ののみちサカイ(武蔵境東西駅間高架下店舗 一部除外店舗有)、nonowa東小金井一部除外店舗有)、nonowa武蔵小金井(WEST・SOUTH・ムサコガーデン)、nonowa国立SOUTH

【食品リサイクル】

食品廃棄物を焼却処分しないことで CO₂排出量を削減

セレオ国分寺、セレオ八王子、セレオ西八王子、nonowa西国分寺、nonowa国立では、賞味期限切れなどで廃棄することとなった食品について、2020年6月から株式会社Jバイオフードリサイクルでバイオ処理を行っています。食品廃棄物を焼却処理する際に排出されるCO₂を削減するとともに、微生物の働き(メタン発酵※)により食品廃棄物から発生するバイオガスを再生可能エネルギーとして電力を供給しています。また、発酵残渣についても肥料化することで、食品リサイクルを推進しています。

※酸素の無い環境で微生物が有機物を分解しメタンを作り出すこと。



【左】食品のバイオ処理と再生可能エネルギーの発電を行う、食品リサイクル発電プラント。

【下】食品リサイクル実績

年度	廃棄量 (t)	CO ₂ 排出量 推定削減効果 (t)	バイオガス発電量 (kWh)	飼料 (kg)
2020	550.42	109,562	240,795	-
2021	667.83	109,298	247,841	-
2022	698.60	144,359	307,595	12,111
2023	665.44	138,888	308,812	58,985

【食料支援の取り組み】

地域の小学校とも連携し 身近な地域課題への意識を高める

2022年度に東小金井駅にて当社では初めてとなる駅でのフードドライブを行い、地域一体となって食料支援に取り組みました。2023年度は武蔵境駅、東小金井駅、西国分寺駅、国立駅、稲城長沼駅の5駅で開催し、駅を利用されるお客さまや地域の皆さま158名の方が参加。ご提供いただいた合計316kgの食品は、各地域の福祉協議会と連携し必要とされるご家庭へ配布しました。参加者からは賛同や継続開催のご意見を多数いただいております。今後も身近な地域課題に取り組んでいきます。



【地域産材の活用】

多摩産材を活用し、 環境配慮型のショッピングセンターへ

セレオ八王子、nonowa東小金井、ムサコガーデン、nonowa国立SOUTHでは、多摩地域の森林から生産された多摩産材認証協議会が産地を証明した「東京の木 多摩産材」が使われています。木材を利用することで、木の温もりを感じる空間を創出するとともに、CO₂を蓄えて大気中に排出しない「炭素の固定」を行っています。地域の木材を使うことで、その地域の森林における伐採、利用、植栽、保育といった循環を促進し、東京の森を再生して将来の世代に引き継ぐことに貢献しています。



会社案内

会社概要

会社名	株式会社JR中央線コミュニティデザイン
主な事業	ショッピングセンター／駅運営／教育／多様なくらしづくり
所在地	【本社】〒184-0004 東京都小金井市本町1-18-10 小金井本町ビル5F 【八王子オフィス】〒192-0083 東京都八王子市旭町1-1 セレオ八王子北館7F
設立	2021年4月1日
資本金	12億3,000万円
代表者	代表取締役社長 小澤 裕

アクセス

■ 本社



【交通のご案内】

JR中央線「武蔵小金井駅」下車

【所在地】

〒184-0004 東京都小金井市本町1-18-10
小金井本町ビル 5F

■ 八王子オフィス



【交通のご案内】

JR中央線「八王子駅」下車

【所在地】

〒192-0083 東京都八王子市旭町1-1
セレオ八王子北館 7F

| 沿 革 |

沿線のくらしづくりを目指して誕生

JR中央線コミュニティデザインは、

株式会社JR中央ラインモールとJR東京西駅ビル開発株式会社の合併により、2021年4月に誕生しました。

2007年	07月	JR東京西駅ビル開発(株) 設立
2009年	09月	JR武蔵小金井南口ビル(現在のnonowa武蔵小金井SOUTH) 開業
2010年	11月	セレオ八王子南館 開業
	12月	(株)JR中央ラインモール 設立
2011年	10月	西八王子ロンロン 運営開始
2012年	09月	nonowa西国分寺 開業
	10月	セレオ八王子北館 開業
2013年	04月	武蔵境駅 運営開始 / 相模原駅ビルナウ 名称を「セレオ相模原」に変更
	05月	nonowa武蔵境WEST 開業
	10月	国分寺エル 名称を「セレオ国分寺」に変更
2014年	01月	nonowa東小金井EAST・WEST 開業
	04月	nonowa武蔵境駅間 順次開業
	05月	国立駅 運営開始
	10月	ののみちヒガコ東・ののみちヒガコ西 順次開業
2015年	02月	nonowa武蔵小金井EAST 開業
	03月	甲府エクラン 名称を「セレオ甲府」に変更
	04月	東小金井駅 運営開始 / nonowa国立EAST 開業
	12月	nonowa武蔵小金井WEST 開業
2016年	04月	nonowa国立WEST 開業 / nonowa国立駅間 順次開業
	06月	nonowa武蔵境EAST 開業
	12月	セレオ武蔵小金井 名称を「nonowa武蔵小金井SOUTH」に変更
2017年	12月	西八王子ロンロン 名称を「セレオ西八王子」に変更
2018年	04月	ディア拜島 運営開始
		ロボットプログラミング教育事業を開始 / プログラボ武蔵小金井校・プログラボ中野 ICTCO(イクトコ)校 開校
		nonowa武蔵小金井ムサコガーデン 開業
	10月	プログラボ国立校 開校
2019年	04月	プログラボ武蔵境校・プログラボ TAC中野校(中野ICTCO校から移転・名称変更) 開校
	10月	プログラボ豊田校 開校
2020年	03月	中央ラインハウス小金井 竣工
	04月	宝仙学園小学校 プログラボ放課後課外教室 開校
2021年 04月	(株)JR中央線コミュニティデザイン発足 (株)JR中央ラインモールとJR東京西駅ビル開発(株)が合併	
2021年	04月	稲城長沼駅・矢野口駅・南多摩駅 運営開始 / プログラボ吉祥寺校・プログラボ調布校 開校
		STATION SWITCH セレオ八王子 オープン
	10月	プログラボ大泉学園校 開校
	11月	プログラボセレオ国分寺校 開校
	12月	西国分寺駅 運営開始
		はちまるステーション オープン
2022年	04月	西八王子駅 運営開始
		プログラボひばりヶ丘校・プログラボセレオ八王子校・プログラボきよせ幼稚園校 開校
	10月	マスターリース・プロパティマネジメント事業開始
2023年	03月	ひとはこやカフェ オープン
	04月	プログラボ仙川校・プログラボ府中校 開校
	05月	SHARE DEPARTMENT 開業
	10月	一部nonowaでの風力発電所由来の電力によるオフサイト型コーポレートPPA 開始
2024年	02月	RAKUTOひばりヶ丘 運用開始
	03月	nonowa 国立SOUTH 開業
	04月	プログラボ立川校 開校

コミュニティの環を拡大中

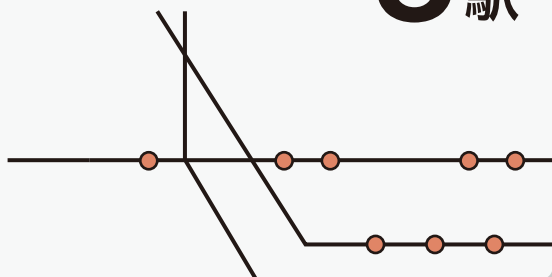
JR中央線沿線を中心に、

関連施設やステークホルダーの数を着々と増やしています。

イベント開催数は50を超え、沿線外からも多くのお客さまにお越しいただいています。

運営駅数

8 駅



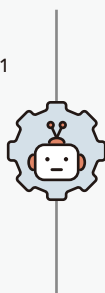
2023年度

ショッピングセンター総売上

82,630 百万円

教育事業 総教室数^{※1}

16 校

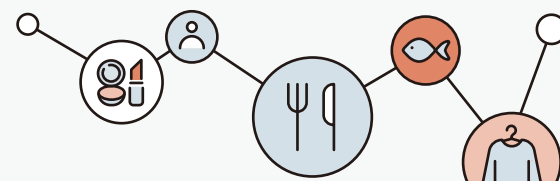


プログラボ生徒数

1,042 名

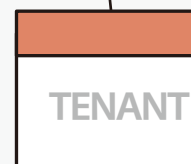
RAKUTO生徒数

41 名



テナント総数

531 店



地域イベント 開催数

約 50 回

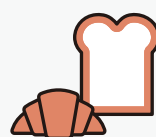


中央線コーヒー フェスティバル 動員数



約 7,000 人

中央線 パンまつり 動員数



約 12,500 人

中央線ビール フェスティバル 動員数



約 51,000 人

※数値（プログラボ教室数※1以外）は、2024年3月時点のものととなります。 ※1 教育事業総教室数は（校内教室を除く）2024年4月時点の数値ととなります。

主なショッピングセンター



CELEO

セレオ八王子 北館

延床面積：73,855㎡



CELEO

セレオ八王子 南館

延床面積：17,053㎡



CELEO

セレオ国分寺

延床面積：71,489㎡



CELEO

セレオ西八王子

延床面積：2,086㎡



CELEO

セレオ甲府

延床面積：13,743㎡



CELEO

セレオ相模原

延床面積：7,930㎡



Dila
拜島

ディラ拝島

延床面積：871㎡



nonowa

nonowa 武蔵境

延床面積：2,987㎡



nonowa

nonowa 東小金井

延床面積：4,483㎡



nonowa

nonowa 西国分寺

延床面積：1,057㎡



nonowa

nonowa 武蔵小金井

延床面積：9,922㎡



nonowa

nonowa 国立

延床面積：7,435㎡

※延床面積は2024年4月時点